

文章教室 ～自分の思いをつづる～



◆ねらい（解決したい地域課題）

自分の思いを伝えたり、口に出したりすることが苦手な子どもが増えており、コミュニケーション力の向上が課題となっています。

当講座は、2019年度で6年目を迎えます。全3回の講座で、作文のコツを学び、自分が感じたことや思いを自由に書くことで、文章を書くことが楽しくなるとともに、表現力やコミュニケーション力を伸ばすことをねらっています。今年度は、小学生37名、中学生1名が受講しました。



講師の北川久美子さん（岡山県立和気閑谷高等学校講師）から作文で気を付けること、文章のきまりを習った後、テーマを決めてまずは下書きを書きます。

講師や助手の先生たちにアドバイスをもらいながら、どんどん文章を書いていきます。



下書きができれば、北川先生に添削をしてもらいます。この時の先生と子どもたちとの間での問いかけや受け答えの時間を大切にしています。

先生のOKがでたら清書します。

できあがった作文は、各講座日の翌日に新聞社へ投稿しています。今年度は、第2回投稿分までで14名の作文が新聞へ掲載されました。自分の作文が新聞に載ってみんなに読んでもらうことができ、子どもたちの作文づくりのモチベーションを高めることができています。

また、講師および助手による指導により、子どもたちは自分で考える力を引き出ししており、講座時間に急成長する様子が見られ、指導する側もやりがいを持っています。

◆参加者の声を紹介します。

◇しんぶんにとったのがうれしかったです。つぎもがんばりたいです。（小学1年生）

◇先生にかき方のコツを教えてもらったので、すらすらかけました。こんなに長い文章ははじめてかいたけど、自分でもかけるんだと自信になりました。（小学3年生）

◇教室に参加して、「文章をかくのが苦手」という気持ちが無くなりました。そして、文を書くのもスピーディーになりました。また、きてみたいと思います。（小学5年生）

◇3回教室がありましたが、1回目は作文を書いたことがなかったので、親子でふーふー言いながら書きあげた感じでした。2回目、3回目になるにつれ慣れてきてスムーズに時間内に書きあげることができるようになりました。すごく成長を感じました。（1年生保護者）



実践報告書

笠岡市新山公民館



もりもりちゃんの夏休み工作教室

☆ねらい

子ども達にも親しみやすい公民館づくりのため、夏休みの機会に工作教室を実施し、公民館職員と子ども同士の交流を深める。また身近な材料を使った工作の楽しさを学ぶ。夏休みの思い出づくり。

☆活動の様子



7月26日(金)17名参加

海の時計作り

なかよしグループで材料を交換したり相談したり、工夫合っていました。

主事もアシスタントしました。

「ペンギンの折り方分からん」

「よし一緒に作ろう」

工作講師



もりもりちゃん(森原ユミ)

公民館の管理人

子ども・工作・料理大好き!



8月9日(金)19名参加

MY コースター作り



ペンやクレヨン、はんこで思い思いに模様をつけたり飾り付けしました。お父さん、お母さんにプレゼントするという子もいました。



笠岡市地域おこし協力隊の寺田伊織さんも参加してくれました。

「もりもりちゃん、これくつつかん」
「グルーガンでくつつくよ！
持っておいで」

☆効果

18名のアンケートの結果、全員楽しかった、17名がまた参加したい、みんなと作るのが楽しい、色々な材料から選べて自由に作れて楽しい、などの意見がありました。

以前に増して、小学校行事・公民館行事・下校時など職員と児童が合う機会に声を掛け合ったり話をすることが増えました。これからも子ども達が気軽に参加できる講座づくりで、公民館を身近に感じてもらい、公民館行事に積極的に参加して地域の色々な世代間交流をしていけたらと思います。

実践報告例(別紙2)

(総社市西) 公民館

(夏休み 公民館へ行こう!) 講座

◆ねらい(解決したい地域課題)

西公民館管内には4つの小学校があるが、管内は約52kmと広いため、離れた小学校の児童同士の交流は少ない。公民館を介しての世代間交流も少なく、公民館から離れた小学校では、来館する機会もきっかけも少ない。当講座を通じて、学校の異なる小学生が西公民館へ集まり、一緒に宿題をしたり、地域の先達から工作や調理を教わったりすることで、児童間・世代間の交流を促す。また、児童間・世代間の知り合いを増やすことにより、住んでいる地域に愛着を強め、郷土愛を醸成する。

当講座では、5日間とも来館後1時間は、退職教諭の指導のもと夏休みの宿題を頑張り、おやつの後、1日目「スライムやスーパーボールを作って楽しく遊ぶことを通して、科学のおもしろさを感じる」、2日目「とんぼ玉作りを体験し古代人の思いに触れる」、3日目「手づくり紙粘土をつくったり身近な材料で工作をしたり、マーブリングや墨流しをしたりして楽しく遊ぶ」、4日目「防災の話の聞いたり、ダンボールベッドを組み立てたり、空き缶を使ってご飯を炊いたりする」、5日目「電子レンジを使って、簡単パンづくりに挑戦する」等の活動を行い、「児童間・世代間交流と、郷土愛の醸成」を促した。



保護者の方も自分用のを作ってしまうほど楽しいとんぼ玉作りです!



紙粘土自体が手作りです!



自分で作ったパンは美味しいです!うずまきあんぱんとベーコンエピをレンジで作りました。



◆効果(参加者の声等)

当講座は、平成29年度に始め、平成30年度は災害のため実施できず、今回が2回目ですが、1回目に参加した児童が「また来たで」とリピート参加してくれたことや、6年生の児童から「中学生になったら参加できんの? 来年も参加したい!」と涙目で訴えられたことに、「児童が、教諭や地域の方と、一緒に楽しい時間を過ごせた」「成功した講座だった」と実感しました。来年度以降は、リピート参加してくれる児童や中学生以上の参加者に、「教える側での参加」と「企画にも参加」を促し、公民館を訪れる機会と親近感の向上に努め、もっと地域への愛着と郷土愛とを醸成していきたいと考えています。